

## 会 議 録

<b>会議名</b> (付属機関等名)		平成29年度第2回川西市図書館協議会	
<b>事務局 (担当課)</b>		教育推進部 まなび支援室 中央図書館 (内線4581)	
<b>開催日時</b>		平成29年 9月 25日(月) 15時00分 ~ 17時10分	
<b>開催場所</b>		川西市立中央図書館 5階 視聴覚室	
<b>出席者</b>	<b>委員</b>	小林文恵委員、小和田勉委員、丸山浩志委員、森野雄二郎委員 田中里香委員、秋山洋煥委員、上田章子委員、中村康子委員、 八田勇委員、仲井徳委員	
	<b>事務局</b>	村山中央図書館長、藤本館長補佐	
<b>傍聴の可否</b>		可	<b>傍聴者数</b> 0人
<b>傍聴不可・一部不可の場合は、その理由</b>			
<b>会議次第</b>		1. 開会 2. 活動報告 (1) 夏休み子ども向け行事 (2) 夏休み子どもの本と読書の講習会 (3) その他 3. 協議事項 (1) 図書館サービスの向上について 4. その他 5. 閉会	
<b>会議結果</b>		別紙のとおり	

# 審 議 経 過

平成 29 年度第 2 回川西市図書館協議会

## 1. 開会

事務局進行

## 2. 活動報告

(1) 夏休み子ども向け行事

(2) 夏休み子どもの本と読書の講習会

(3) その他

前回の図書館協議会以降に実施した(1)(2)の事業と小学校教員の初任者研修・高校生インターンシップの受入について報告した。

## 3. 協議事項

(1) 図書館サービスの向上について

事務局より、中央図書館の現状について、過去5年間の主な統計に基づき報告した後、中央図書館の課題について、平成27年度に図書館協議会から提出された意見書「川西市民が求める図書館像」を踏まえて、協議を行った。

## 質問・意見等(要旨)

委員：東大阪市立図書館では、過去1回も貸出をされていない本を入口付近に展示している。

川西でも実施してはどうか。

事務局：東大阪以外でも採用されている。取り組みとして検討する。

委員：蔵書となってから貸出0回の本は、全体の何%か。

事務局：調査する。

委員：公民館図書室の貸出数が加われば、図書館の統計データも増加する。川西市の図書館のデータに公民館図書室のデータを含めるべきである。

事務局：所管が異なるため、統計には公民館図書室のデータを含めていないが、他市の状況等を確認する。

委員：平成27年度の来館者数が大きく減っているのはなぜか。

事務局：平成27年度来館者の算出方法が異なるためであるが、正確な数字は現行の算出方法であり、同算出方法であれば、平成27年度も40万を超えている。

委員：意見書の中で少子高齢化が取り上げられているが、平成29年度に高齢者への対応がないのはなぜか。

事務局：高齢者向けのサービスが進んでいないのは課題の一つである。その他、書架整理やICTの活用、地域情報の提供が図書館の課題となっている。

委員：地域情報や資料の電子化について人材を養成しているのか。

事務局：なかなか進んでいない。正職員が少なく、人材育成は難しい状況である。

委員：すでに能力のある人を募集しないとゼロから育てるのは難しいのではないかと。

委員：人員についてはボランティアを活用してはどうか。はじめから職員募集するのではなく、能力がありやる気がある人に来てもらってはどうか。

事務局：書架整理などのボランティア募集する予定であったが、専門的なボランティアの導入は念頭になかった。

委員：ボランティア活動をしているが、実際にボランティアはなかなか集まらない。

委員：昨年行った電子書籍モニターの結果はどうなったか。

事務局：昨年、図書館協議会委員の一部のみなさまに、電子書籍モニターになっていただいた。電子書籍導入について積極的なご意見は少なかった。これは、試行版としてコンテンツが非常に少なかったことも影響していると思われる。

実際の電子書籍もコンテンツはまだ少ないが、今後増えてくるとと思われる。

図書館としては、情勢も見ながら、コンピュータ更新時期を目途に考慮していく。

委員：横積み無くし、スペースを作るためには本を捨てるしかない。

委員：蔵書数よりも読まれる本が何冊あるかが大切である。

委員：新規事業よりも図書館機能の運営が大前提である。事業を減らして、基本的なことに集中してはどうか。

事務局：書架整理に集中していきたい。

委員：長期休館して廃棄作業や書架整理をしてはどうか。

事務局：現状では、抜き出した本を置くスペースさえない。

委員：幼稚園の園児は、見やすいものから手に取る。健康に関するグッズと本と一緒に並べるなど工夫が必要ではないか。

事務局：現行の展示に関しては工夫が足りないと思っている。

委員：三田市では高校生が本を紹介するコーナーがある。小学生の図書ボランティアなどに本の展示を任せてはどうか。

委員：小・中・高等学校との連携では、学校が助かる資料を提供してほしい。児童・生徒・学生も公共図書館の本に触れることで、図書館の利用も増えるのではないかと。

委員：高齢者サービスについて、高齢者の福祉施設に対して、図書館サービスの告知や宣伝はできるか。

事務局：図書館から施設に対して連絡は可能である。

委員：本が好きの人を増やすのは、本が好きなお子をも増やすことである。市内の全ての小・中学校では朝読を実施している。毎日本を読むことの効果は根付いてきている。学生は

図書館へ行く時間がないだけである。

委員：図書館の宣伝力は低い。アステの中に入ってからの図書館の場所がわかりにくい。

図書館のチラシ等はアステ市民プラザに配置しているか。

事務局：イベントがあるごとにチラシを市民プラザに持って行っている。

委員：自動貸出機を導入してはどうか。

事務局：高額であるため簡単に導入できない。

委員：図書館は何を目標とするかによって、課題も変わる。

事務局：今の課題は書架スペースに対して蔵書数が多いことである。

委員：書架を増やすことはできないか。また、書架にあって貸出されていない本を抜いて行くことはできないか。

事務局：書架の増設は進めている。また、貸出回数の少ない本の除架作業も順次実施しているが、除架した本の置き場もないのが現状である。

委員：本棚をもう一段増やしてはどうか。他の図書館では、書架がもっと高い。

事務局：本棚は予算がつけば増設したい。中央図書館では、車いす利用の来館者や耐震対策のため書架を低くしている。

委員：図書館は予算を使い切るために本を買うのか。

事務局：予算があるから本を買うのではなく、図書館資料を新鮮にし、利用を促すためである。

委員：本の選定は、専門の人がやっているのか。

事務局：司書資格を持つ複数の担当者と正職員で選定している。

委員：専門知識を持つ学校の先生方から図書廃棄の基準など聞いてはどうか。

委員：キセラ川西に図書館は入らないのか。

事務局：キセラに図書館は入らない。公民館が入る予定である。

委員：上部の図書館と連携が取れれば、中央図書館で絶版本など集める必要はない。

委員：上部の図書館と連携を図るのは、人材を特化して作る必要がある。

委員：ICTの活用を図る必要がある。

事務局：本日提出されたご意見を参考に運営を進めていく。ありがとうございました。

#### 4. その他

事務局より引き続き「図書館における市民サービスの向上に向けて協議願いたい。ついては、次回11月に第3回図書館協議会を開催したい。」と伝える。

#### 6. 閉会

以上